

■マレー沖海戦



1941年12月

日本軍のマレー半島上陸船団の出撃を察知していたイギリス東洋艦隊司令官トマス・フィリップス大將はこれを殲滅させるため艦隊の出撃を決定。

新鋭戦艦「プリンス・オブ・ウェルズ」、巡洋戦艦「レパルス」、駆逐艦4隻を伴い、12月8日夕刻、シンガポールを出港した。

英国艦隊がマレー半島の上陸部隊を捕捉し、上陸を阻止されては日本軍にとって大きな痛手となる。

しかし、日本艦隊は英国艦隊の位置をつかむことなく、いたずらに時は過ぎていく。

そして、12月10日早朝

サイゴンとその周辺にある日本海軍基地航空部隊は英艦隊を発見する最後のチャンスを狙う。

索敵機で敵艦隊を捜索し、発見次第、攻撃隊を向かわせ英艦隊を殲滅するのだ！



■日本軍戦力

- ・ツダウム基地
 - 一式陸攻 26機
 - 九六式陸攻 33機
- ・サイゴン基地
 - 九六式陸攻 5機 (索敵機)
 - 九六式陸攻 26機
- ・ソクトラン基地
 - 九八式陸偵 2機 (索敵機)
- ・プロコンドル島基地
 - 零式水偵 3機 (索敵機)